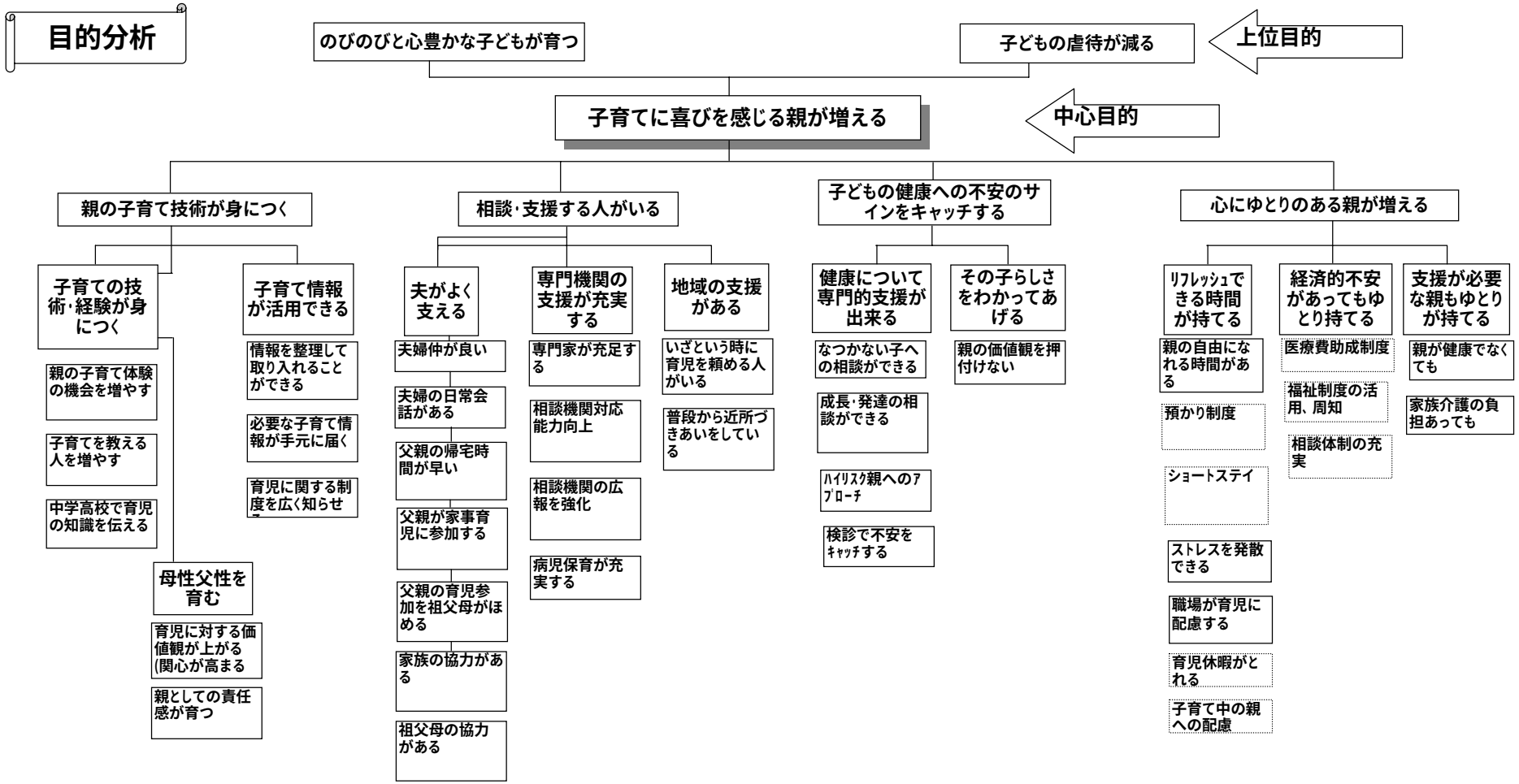
参考図2


目的分析
のびのびと心豊かな子どもが育つ
子どもの虐待が減る
上位目的
子育てに喜びを感じる親が増える
中心目的
親の子育て技術が身につく
相談・支援する人がいる
子どもの健康への不安のサインをキャッチする
心にゆとりのある親が増える
子育ての技術・経験が身につく
親の子育て体験の機会を増やす
子育てを教える人を増やす
中学高校で育児の知識を伝える
母性父性を育む
育児に対する価値観が上がる(関心が高まる
親としての責任感が育つ
子育て情報が活用できる
情報を整理して取り入れることができる
必要な子育て情報が手元に届く
育児に関する制度を広く知らせる
夫がよく支える
夫婦仲が良い
夫婦の日常会話がある
父親の帰宅時間が早い
父親が家事育児に参加する
父親の育児参加を祖父母がほめる
家族の協力がある
祖父母の協力がある
専門機関の支援が充実する
専門家が充足する
相談機関対応能力向上
相談機関の広報を強化
病児保育が充実する
地域の支援がある
いざという時に育児を頼める人がいる
普段から近所づきあいをしている
健康について専門的支援が出来る
なつかない子への相談ができる
成長・発達の相談ができる
ﾊｲﾘｽｸ親へのｱﾌﾟﾛｰﾁ
検診で不安をｷｬｯﾁする
その子らしさをわかってあげる
親の価値観を押付けない
ﾘﾌﾚｯｼｭできる時間が持てる
親の自由になれる時間がある
預かり制度
ショートステイ
ストレスを発散できる
職場が育児に配慮する
育児休暇がとれる
子育て中の親への配慮
経済的不安があってもゆとり持てる
医療費助成制度
福祉制度の活用、周知
相談体制の充実
支援が必要な親もゆとりが持てる
親が健康でなくても
家族介護の負担あっても